

第1回 ごみゼロカフェ 開催報告

『落語で学ぶ 海洋ごみ問題』

日本の伝統文化である落語の“笑い”を通じて、海の現状を面白く伝え、環境の専門家によるトークで、楽しく分かりやすく伝えていく。今回は日本財団 海と日本プロジェクトの一環で行われている「海の落語プロジェクト」で活動する落語家の立川こしらさん、環境の専門家の井手迫 義和 さんを講師に迎え、多くの人に海の問題を知ってもらい、会場に集まった皆さんと意見交換しながら、自分たちが何ができるかを考えました。

【講師】日本財団 海と日本プロジェクト「海の落語プロジェクト」



落語家 / 立川 こしら さん

立川流落語家真打/立川志らく門下総領弟子
立川談志師匠初の孫弟子真打、かつ師匠存命中最後の孫弟子。1997年立川しらくに入門、
2001年二つ目昇進、2011年真打昇進内定、
2012年真打昇進。



環境の専門家 / 井手迫 義和 さん

筑波大学大学院環境科学研究科修了、埼玉大学大学院非常勤務講師、WMO（世界気象機関）公認の気候キャスター。



第1回 ごみゼロカフェ 開催概要

- 【日 時】令和3年9月4日（土） 10:00～11:30
- 【会 場】川崎市総合自治会館「ホール」
- 【参加者】21名
- 【内 容】第1部…落語①「ごみ捨てガニ」
第2部…専門家トーク（海のごみ問題について、地球温暖化について）
第3部…落語②「浦島の海」

第1部：落語① 「ごみ捨てガニ」

海のごみ問題に関するきっかけをつかんでもらうため、まずは立川 こしら さんによる落語からスタートしました。

落語を通じて、海洋ごみの問題、海の温暖化や酸性雨、漁業資源の問題について知ってもらう活動を行っている「海の落語プロジェクト」は、普段は小中学校を中心に活動を行っています。このため、今日は子どもになった気持ちで参加してみてくださいとの前置きがありました。今回の参加者は普段は落語には親しみがない方が多いようで、まずはウォーミングアップとなるマクラが披露されました。そして場の雰囲気が少し和んだところで、本題が始まりました。



<おはなし>

ごみを拾うカニのお話。カニには特殊能力があり、カニがごみに触ると、そのごみがどのように捨てられたのか、エピソードを見ることができるといふ不思議な能力を持つ。

人間たちの間で繰り広げられている、ごみにまつわるエピソードから、ポイ捨て・使い捨ての社会の実情が垣間見える。

呆れてしまったカニはついに怒ってしまい、暴挙に出た。これまで丹精に拾ってきたごみをまき散らすカニ。しかし、そこに現れたのは…。

第2部：専門家トーク 海のごみ問題について

専門家トークでは、井手迫 義和 さんが登場し、立川 こしら さんとの軽快な掛け合いで、「海洋ごみ」に関する話題からスタートしました。

まずは最初に海に浮いているごみと沈んでいるごみのどちらが多いかという質問があり、浮いているごみは全体の4%にしか過ぎず、大半は沈んでいるものが多いという現実が示されました。沈んでしまったごみは光も届かない場所にあるため分解もされず、数千年から数万年もの間、海洋に残ると言われているということです。



また海洋ごみは街から発生したものが8割を占めているというお話がありました。

特にそれらのごみは台風襲来などの大雨の時などに側溝などから川に流れ、最終的に海に達してしまいます。日本の近海には世界平均の27倍ものごみがあるとされており、特に多いそうです。

世界中の海に流れるプラスチックごみは年々増加しており、このままいくと、2050年には世界中の魚の重さより、プラスチックごみの重さの方が大きくなると言われています。

日本人は一人当たりのプラスチック消費量がアメリカに次いで世界2位であり、一人ひとりの行動を変えていくことが、プラスチックごみの削減につながっていくのではないのでしょうか。ちなみに井手迫さんは漁師さんの網に引っかかったプラスチックごみから100%リサイクルされた靴を履いていました。

第2部：専門家トーク 地球温暖化について

続いて、「地球温暖化について」の専門家トークが行われました。

120年前から海の温度が大きく変化してきているということで、特に海の熱波という現象も発生してきていることがグラフで示されました。この影響のせいか、アメリカでは記録破りの熱波で、ムール貝が茹で上がって死んでしまう現象も起きているとのことでした。

私たちの食卓で身近な魚でもあるサンマ（秋刀魚）が秋に獲れなくなっているのも、海水温の変化のせいではないかと言われています。海水の2～3度の変化は、気温でいうと20～30度の変化に匹敵するということで、海の生き物にとっては深刻な問題です。さらに、海水温が上がるとう海の魚の栄養価も下がってしまうとも言われています。

参加者に寿司ネタのサンプルが配られ、30年後に残っている寿司ネタを当てるクイズが行われました。12個のネタのうち、マグロやイカ、エビ、イクラなど定番のネタが食べられなくなる可能性があることが分かり、皆さん一様に驚かれた様子でした。

海水温が上がることで強い台風の割合も過去30年で約2倍になっており、それによって破壊力も増しているとのことでした。

プラスチックごみは石油由来の製品であり、製造時も廃棄時も地球温暖化につながってしまいます。さらに、海へと流れてしまったプラスチックごみは海で劣化し、その際にメタンガスを放出し、それも地球温暖化の原因になり、負の連鎖が起きてしまうことが示されました。これを食い止めるためにも、使い捨てのプラスチックを極力減らすことが大事であるとのことのお話でまとめとなりました。



第3部：落語② 「浦島の海」

最後にもう一席、地球温暖化をテーマにした落語「浦島の海」が披露されました。

「海の落語プロジェクト」は、小学校などでの授業を通じて、子どもたちが学び、その内容を子から親へも伝えていくプロジェクトになっていますが、今回の落語は「親から子へ」伝える昔話を現代風にアレンジしたらどうなるか、という面白おかしいお噺で幕を下ろしました。

<おはなし>

子どもを寝かしつけようと、昔話を披露するお父さんと息子のお話。

いつもの調子で「浦島太郎」を語るが、息子に予想外な突っ込みをされてしまう。

浦島太郎が竜宮城で暮らした200年間に、海にどのような変化があったのか。海の酸性化や海水温の上昇で、タイやヒラメもいなくなった「浦島太郎のおとぎ話」は如何に！？



参加者の声

落語との組み合わせが面白かった。話の内容や写真もとても分かりやすかった。
(60代)

落語を通して今回の問題提起は特にごみ問題に関心のない人にも向いていて、関心を広げていけると思います。
(60代)

落語に海洋プラスチック問題と取り入れるという取り組みが新しいと感じました。(20代)

50代ですが、子ども向けの今回の趣旨が、自分には理解できた。今回知ったことを自分自身が実施し、周囲にも広めていきたいです。
(50代)



ペットボトルが6パーセントしかリサイクルされていないことに驚きました。普段からプラスチックの排出に気を付けていますが、より意識しようと思いました。(20代)

プラスチックの凄さを再確認しました。子どもたちにこのような企画をしておられることにとても感心しました。(80代)

落語とのコラボは現実を知らせていくのに大変良い手法だと思いました。今度孫を連れて参加したいです。(60代)

とても素晴らしい企画・内容なので全国の学校にこの活動が広がると良いと思いました。またYoutube等のWEBで公開するのもよいと思いました。(60代)

「ごみゼロカフェサポーター」になりませんか？

- 「ごみゼロカフェ」は、様々な市民が施設見学や講師からのお話を通して、ごみの減量化・資源化について考えるイベントです。年3回開催します。お茶を飲みながら、カフェのようにくつろぎながら意見交換し、ごみ減量のアイデアを出していきます。
- ごみゼロカフェで、ワークショップの進行や受付など運営のお手伝いをする「ごみゼロカフェサポーター」になりませんか？
- サポーターの詳細案内や登録はホームページからお願いします。

川崎市ごみゼロカフェ

検索



<お問い合わせ>

川崎市環境局生活環境部減量推進課

E-mail : 30genryo@city.kawasaki.jp TEL : 044-200-2580 FAX : 044-200-3923